

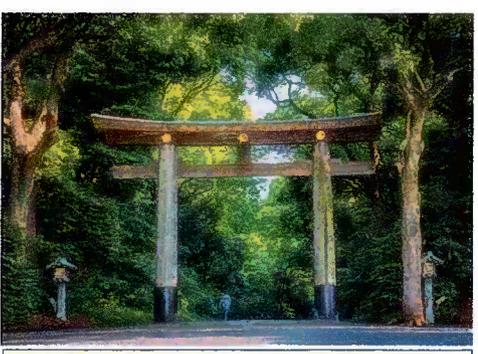
混和会とは、共に許し合いながら、他の人格を尊重し、共に生きる和の構築を目指す集いです。

ほとけの 混和会だより

令和二年十二月
東光院
仏の混和会
第150号

新型コロナウイルスの感染拡大は未だ収束の兆しを見る事が出来ません。皆様は、於かれましては、長期の厳しい自粛要請さぞお疲れの事と存じます。心よりお見舞い申し上げます。

コロナ禍による 価値観の大転換



宮神治育を命の森、を永遠の科
造の成から100年

「グリーン・リカバリー」自然との共生、持続可能社会。この度のコロナ禍により世界の経済は著しく衰退してしまいました。しかし生命存続の危機的

状況下にある地球環境は、人々の活動自粛により一時的ではあるものの著しく改善されたそうです。よって世界各地に於いて、感染拡大後の社会を経済政策を優先させるのでは無く、むしろこの機会をきっかけに地球温暖化による気候変動、その対策をさらに推し進め生態系や生物多様性の保全を通じて災害や感染症などに対して、より柔軟性を持った社会へ移行して行く、持続可能社会・自然との共生グリーン・リカバリーの考え方が広まって参りました。日本政府に於いても、持続可能社会への変換を世界に呼びかけ、九月三日七十カ国の参加の元にオンライン会議を開催し小泉環境大臣は「脱炭素社会」「循環型経済」「分散型社会」の三つをキーワードに、それぞれの国と地域が取り組んでいくことを確認されたと報じられておりました。そこで自然との共生、持続可能社会とはどういうものかと色々調べておりましたら明治神宮の森に行き着きましたので下記にご紹介致します。

「ブツダ」は大自然の様々な植物や動物、その生命は人の為にあるのではなく、大自然の永遠の命を育む為には有って人類もその一部に過ぎないと説いておられます。極端に言い換えるとお育む大自然の森、その森のお陰で私達人類も生かされて居ると解釈して良いと思えます。正に自然との共生かと思えます。科学的理論の元に造られたのが明治神宮の森だったのです。この森では堆積された落ち葉が豊かな腐葉土となり微生物を育み、微生物は他の命を育て、他の命も他の命を頂き、共にその種の命が育まれ森全体が大きく成長して行きます。そして森の成長に伴い様々な命は、次の命の爲に己の命を捧げ永遠の命を育む森として成長して行くのです。正に持続可能社会の原点かと思えます。

この十一月一日明治神宮の森が造成されて百年目を迎えたそうです。その森は百年、千年先を見据えて永遠に命が育まれるよう科学的理論の元に造成された人工林で有る事を知り大変驚いた次第であります。改めて大自然の営みを敬い感謝の念を捧げ、自然との共生を模索して参りたいと思致します。合掌 亮観拜



十二月八日は 釈尊お悟りの日

二千五百年程前ヒマラヤのふもとに釈迦国と言う小さな王国がありました。その王子様は人々の様々な苦悩を見てひどく嘆き悲しみ、「何とかこの苦しみの境地から人々を救う事は出来ないものか」と人々の幸を願い城内にて毎日瞑想にふけておりました。しかし、我が国だけ幸せになれば良いと言う問題では無い事を知り、王位継承の地位を捨てて出家されてしまいました。そして六年間の厳しい修行によつて、自ら死の寸前まで追い込んでしまった王子は、スジャータと言う村娘の乳粥の介抱を受け体力を快復されて十二月八日、明けの明星を見て、真理を悟り「ブツダ」となりました。その悟りの境地を一言で言い表すのは大変危険な行為なのですが、私が関心を抱いている言葉が「入我我入」と言う教えです。「仏が我に入り、我が仏に入る」いわゆる仏の境地と一体になると言う事ですが、仏の境地とは大自然大宇宙の永遠の生命、その大自然大宇宙と一体となることです。正に自然との共生かと思致します。



日本仏教に登場する仏様を毎月少しづつご紹介。今回も除災の御利益が有るとされる方をご紹介します。

● 天部 歡喜天

又は「聖天様」として親しまれる除難と福徳を授ける仏教の神様です。象の頭をしており、元々はインド神話で登場する「ガネーシャ」という人々に障害を与える魔王でした。ある日、女性に姿を変えた十一面観音に一目惚れし、結婚を申し込んだ所「仏教に帰依したら」という条件を出されました。王は条件を飲み、障害を与えると云う力を逆手に取り、人々への障害を払いのけ福をもたらす護法神となりました。



この逸話から歡喜天の二体の象が抱き合う形をしています。

の足を踏みつけている方が十一面観音（女）とされ、歡喜天（男）がまた悪さをしない様に戒めていてと言われている様です。神様の世界でも奥様の方が強いようです。

方法は、秘法と呼ばれるほど極めて特殊な修法と作法が必要とされます。歡喜天は不浄を嫌う為、祈願者は「日頃から清浄を保ち、常に誠心誠意に信仰すべし。」と言われ、その他にも幾つもの戒律を護り暮らさなければ罰を受けるとそうです。

め、氣安くお参り出来な様、歡喜天像の多くは秘仏とされ滅多に目にすることが出来ません。

若しかしたら、幸せは神仏にせに簡単にしているのに入らないと伝えてはいるのかも知れません。

い・うが咳エチケツト等）を意識すれば、自然と除難（コロナ除け）となり結果として福徳（健康）へと繋がる事でしょう。

う。康へと繋がる事でしょう。亮 澄 拝

コロナ禍において

巷では第三波が襲来し問題になっておりますが、深大寺の初詣も深刻な問題を抱えております。通常の法事であれば広い堂内に少人数で距離を取り、十分な換気と消毒を行います。お正月はそうは行きませんが、よほどの事態で無い限り始めから封鎖を宣言することできません。リスクを下げるため、組合、行政、警察と一丸になって苦悩の日々が続いております。初詣は三ヶ日だけではありません。皆様もお参りの際は分散参拝をよろしくお願い致します。

七五三の季節に

調布深大寺では七五三参りがピークを迎え、多くのご家族がお参りにいらっしやいました。今年は堂内の密を避けるために入堂人数を絞り、例年とは異なる祈願となりましたが、遠方ではなく近くの寺社仏閣でのお参りを考える方が多く、境内は色とりどりの着物と子供の元気な声にあふれておりました。

苦労を分かち合う お蕎麦の収穫



十一月十五日お蕎麦の収穫を致しました。七百五十坪の畑、皆様のご協力を頂き手作業でも、ほぼ半日で終える事が出来ました。



初めて参加された人は、広大な面積に圧倒された勢の力は、そのような不安を、あっさりといのけ、苦労を分かち合う喜びにも見受けられました。



その後も天候に恵まれ一週間後の二十二日脱穀作業も無事終了致しました。この日はお子さんが連れの家族、四人が初参加、デジタル化された孤独社会に陥つてしまったお子さんがアナログ環境になぜか興奮気味に楽しそうに手伝ってくれました。亮 観 拝



その後も天候に恵まれ一週間後の二十二日脱穀作業も無事終了致しました。この日はお子さんが連れの家族、四人が初参加、デジタル化された孤独社会に陥つてしまったお子さんがアナログ環境になぜか興奮気味に楽しそうに手伝ってくれました。亮 観 拝